

I 単元名

<授業の見どころ>

もっと知りたい みんなのまち
 わたしたちの市の様子

(小学校3・4年社会科副読本 わたしたちの盛岡 盛岡市教育委員会)

今まで学習で積み重ねてきたことを根拠に、単元の学習問題に迫ります。また、資料提示によって学習問題に対する自分の考えを深めます。

II 単元の指導構想

1 単元について

○ 本単元は、学習指導要領第3学年の内容(1)「身近な地域や市区町村の様子」に基づいて設定した単元である。この内容は主として「地理的環境と人々の生活」に区分されるものである。

前単元である「わたしたちのまちはどんなまち」では、観察・体験を通して小学校区の様子についての理解を広げていくことに対して、本単元は土地利用図や写真資料等をもとにして、盛岡市の地理的環境をおおまかに理解できるようにしていく。

本単元では、前単元での学習を生かし、問題解決に向けて適切な資料を根拠に、盛岡市の様子について大まかに捉えられるようになることを目指す。岩手県内の盛岡市の位置について捉えた後、土地利用・交通の広がり・公共施設の場所やその働き・古くから残る建造物の分布などに着目して学習を進めていく。それらを白地図に表していくことや盛岡市の様子を言語化する活動を通して、同じ市内でも地域によって特色があることに気づき、子どもたちの視野を小学校区から盛岡市全体の様子の理解へ広げていく。

○ 本学級の子どもたちは、普段から身近な地域の地理的環境への興味関心が高い。例えば、前単元の学習でも「学校の周りには建物が多いけど、僕の家近くにはリンゴ畑がある。」と土地の利用の仕方について、生活経験をもとに比較した結果を発言できる子どもがいる。しかし、社会的な見方・考え方を働かせて考えるよさや価値については、まだ無自覚な様子が見られる。本単元は、子どもたちにとって社会科との出会いとなる学習である。子どもたちは昨年度の生活科の学習で探検やインタビュー活動を通して、仁王小学校の周りには様々な場所があること、多様な人々が生活したり働いたりしていること、それらが自分たちの生活を支えていることに気付いている。本単元では、これらの学びの文脈や個々の生活体験を共有し、社会科の見方・考え方を視点として示すことで、子どもたちの身近な地域を「小学校区」から「盛岡市」へと広げていく。また、学級の子どもたちの多様な自然体験や生活経験について資料をもとに共有したり、一般化したりすることで、子どもたちが今まで無自覚に捉えていた盛岡市の地理的環境についての理解を深めていけるように学習を進めていく。

○ 指導に当たっては、次の二点に留意する。

一点目は、**自分の考えの再構成を促す資料提示と発問**である。子どもたちの生活と社会的事象をつなげられるような資料や調べたことが本当に確かなものかを検証する資料を単元の中に位置づけることで、単位時間の中での学習問題に対する自分の考えを深めたり、再構成したりできるようにする。また「なぜ」「どうして」などの考えの根拠を問う発問を資料提示の際に位置づけることによって、子どもたちが無自覚で捉えていることを、知識として獲得し、その知識を使って概念的な知識に到達できるようにしていく。

【手立て2 よりよく学ぶ3つの視点】

二点目は、**学びの深まりを実感するふり返し**についてである。単元の学習計画をたてる際、複数の地域の特徴を示した写真資料を根拠に、盛岡市の地理的環境についての自分の予想を書き込ませる。単位時間のまとめとして、学習して分かったことを別の白地図に書き込み、個別の学びの蓄積を視覚化していくことによって、位置や空間的な広がりを視点として、子どもたちが今何を学んでいるか、これから何を学んでいきたいのかを考えられるようにする。また、単元の最後に学習する前と後の白地図を比較することで、個別の学びを振り返るとともに、「他の人の白地図も見たい。」という集団への学びの広がりに子どもたち自身が自然につながれるようにしていく。その白地図を根拠とした集団での学びから、「盛岡市の様子は一言では表せない。」「場所によって違いがある。」ということに子どもたち自身が気付くことができるように、教師は授業の中にふり返しや子どもたちの知的欲求を位置付け、子どもたちの学びを支えていく。

【手立て1 「学びの文脈」のデザイン】

2 単元構想図

単元の目標

- ・ 身近な市の様子をおおまかに理解するとともに、調査活動や地図帳などの資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ・ 身近な市の場所による違い、人々の生活の関連などを考え、考えたことを表現する力を養う。
- ・ 身近な市について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情を養う。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などについて観察。調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、市の様子を理解している。 ② 調べたことを白地図などにまとめ、自分たちの市の様子を理解している。	① 都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、問いを見いだし、市の様子について考え表現している。 ② 市内の特色あるいくつかの場所の様子を調べ、比較したり、分かったことを総合したりするなどして場所の違いを考え表現している。	① 自分たちの市について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

復興教育との関連

- かかわる「⑩地域とのつながり」
自分達の住む地域や市の特色について、比較しながら考えられるようにする。

他教科・領域等

- 総合「学区のよさとそれを大切にしようとする人々」
「仁王学区 安心安全100パーセント」
- ・ 自分の関心をもとに、課題を設定し、課題の解決に必要な情報を集めることができる。
 - ・ 情報を収集、整理、分析することができる。

資質・能力の高まり

「もっと知りたい みんなのまち」

小単元

「わたしたちのまちはどんなまち」

目標

- ・ 身近な地域の様子をおおまかに理解するとともに、調査活動や地図帳などの資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ・ 身近な地域の場所による違い、人々の生活の関連などを考え、考えたことを表現する力を養う。
- ・ 身近な市について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情を養う。

小単元

「わたしたちの市の様子」

目標

- ・ 身近な市の様子をおおまかに理解するとともに、調査活動や地図帳などの資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ・ 身近な市の場所による違い、人々の生活の関連などを考え、考えたことを表現する力を養う。
- ・ 身近な市について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情を養う。

「市の人たちの仕事」

3年6・7月

「りんごをつくる仕事」(生産)

3年7・8月

「わたしたちのくらしと店の仕事」(販売)

教科の学習内容

他教科・領域等

2年 生活科 「とびだせ 仁王たんけんたい」

- ・ 地域には様々な場所があり、多様な人々が生活したり働いたりしていること、それらが自分たちの生活を支えていることに気付くことができる。
- ・ 探検活動を通して見つけたことやきづいたことを自分なりに工夫してまとめたり、紹介したりすることができる。

見方・考え方を働かせるポイント

- 子どもたちが自分の考えを再構成することができる発問・資料提示。
- 自分が学んできた過程を確かめ、学習問題の解決に向けた毎時間の振り返りを視覚化し、単元計画に位置づける。

願い

- 自分たちが知っていることと地図をつなげて考えたい。
- 盛岡市についてもっとくわしくなりたい。
- 行ったことのない場所に何があるか知りたい。

教科の力

- 地域の地理的環境に興味関心が高い。
- 調べたことを地図に表すことに抵抗感がある子どもが少ない。
- 資料を根拠として、自分の考えを話すことに難しさを感じている。
- 資料で調べたことが、自分たちが解決したい問題とどのようにつながっているのかを考えることが難しい。
- 「知っている」と判断する根拠の範囲が狭い。

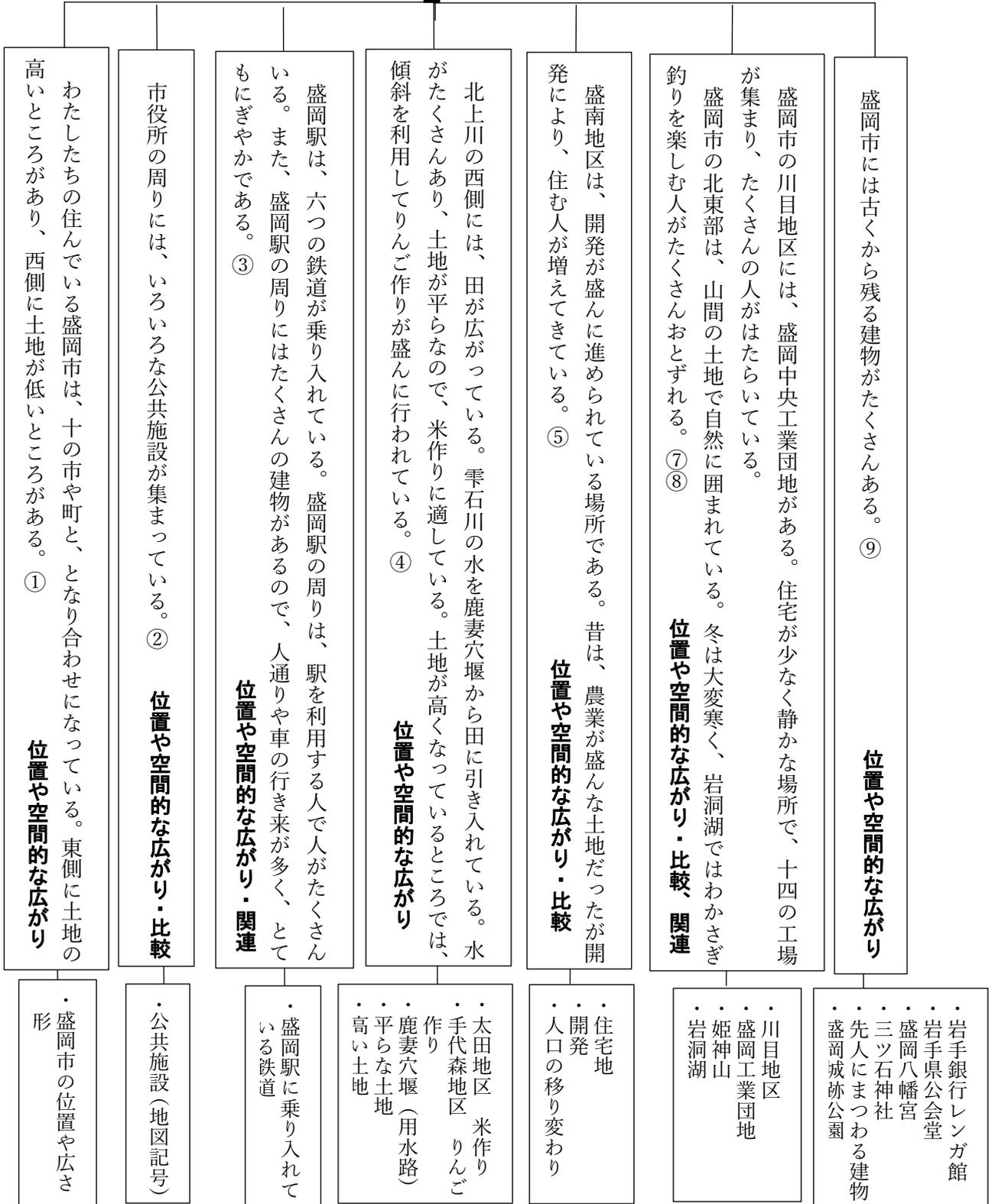
子どもの実態

【中心概念】

同じ市の中にも、様々な特色がある地域がある。

それぞれの土地の様子、建物の様子、交通の様子は、場所によって違いが見られる。⑩

【具体的知識】



【用語・語句】

4 単元の指導及び評価の計画（全10時間）

段階	時	ねらい 働かせる見方・考え方	◆研究の手立て		□ 資料	評価方法と【評価規準】
			◆手立て1 学びの深まりを 実感するふり返り	◆手立て2 自分の考えの再構 成を促す資料提示		
問題の把握	1	盛岡市の様子について、市の空中写真や土地の高さや利用に関する地図を見て、自分たちが暮らすまちの他にも様々な地域があることに気づき、市全体の様子に関心をもつ。 位置や空間的な広がり	学習問題の予想を白地図に表すようにする。		<input type="checkbox"/> 空中写真 <input type="checkbox"/> 地図 <input type="checkbox"/> 岩手県全体の地図	ノートの記述内容や発言から、市の様子について、身近な地域との違いを考え、表現しているかを評価する。 【思一②】
	2	市内の特色ある場所の写真を見て話し合ったことをもとに学習問題をたて、学習問題について予想することができる。また、予想を確かめるために調べることや調べ方を話し合い、これらからの学習にも通しをもつ。 位置や空間的な広がり・比較		<input type="checkbox"/> 特色ある地域の写真	<input type="checkbox"/> 盛岡市全体の土地利用を示した地図	ノートの記述内容や発言から、市の特色ある場所の写真を見て話し合ったことをもとに学習問題をつくり、表現しているかを評価する。 【思一①】 活動や発言内容から市の様子を調べる学習問題について予想し、学習の見通しを立てて主体的に追究しようとしているかを評価する。 【態一①】
わたしたちが住んでいる盛岡市は、どのような市なのだろうか。						
問題の追究	3	市役所の周りの様子について、資料を用いて調べ、公共施設が集まっていることや昼と夜の車通りを比較することによって、この地域の特色を捉えることができる。 位置や空間的な広がり・比較	毎時間のふり返りで、学習したことを白地図に書き込み、学習問題への解決の見通しを持たせる。	<input type="checkbox"/> 昼の交通量と夜の交通量を比較するための資料	<input type="checkbox"/> 市役所の周りの地図 <input type="checkbox"/> 内丸の様子を示した写真	ノートの記述内容や発言から市役所の周りが公共施設が多いことについてまとめているかを評価する。 【知一①】
	4	盛岡駅の周りの様子について、資料を用いて、駅を中心に様々な交通機関が広がっていることや建物の特徴について気付くことで、たくさんの人にぎわっている理由について考えることによって、この地域の特色を捉えることができる。 位置や空間的な広がり・関連		<input type="checkbox"/> にぎわっている盛岡駅の写真 <input type="checkbox"/> 盛岡市の交通の広がり分かる資料（バス・タクシー）	<input type="checkbox"/> 盛岡駅周辺の地図 <input type="checkbox"/> 盛岡駅周辺を上から見た写真 <input type="checkbox"/> 路線図	ノートの記述内容や発言から盛岡駅の周りの交通の様子についてまとめているかを評価する。 【知一①】
	5	田や畑の多いところの様子について、資料を用いて、その分布や利用について捉える。 位置や空間的な広がり		<input type="checkbox"/> 太田地区の夜の音声資料	<input type="checkbox"/> 太田地区の地図 <input type="checkbox"/> 太田地区の写真	ノートの記述内容や発言から太田地区の土地の使われ方の特徴についてまとめているかを評価する。 【知一①】
	6	住宅が多いところの様子について、住んでいる人の話を聞いたり、写真や地図で土地の使われ方を調べたりして、住む人が増えてきた理由について考えることで、この地域の特色を捉えることができる。 位置や空間的な広がり・比較		<input type="checkbox"/> 盛南地区に住んでいる人の話（住んでいる理由）	<input type="checkbox"/> 盛南地区の地図 <input type="checkbox"/> 盛南地区の写真 <input type="checkbox"/> 人口の移り変わり	ノートの記述内容や発言から、盛南地区の人口の増加の理由について表現しているかどうかを評価する。 【思一②】
	7 8	工場の多いところや山間の土地の様子について、資料を用いて調べその土地の特色を捉えることができる。また、自分が調べた地域の様子について相手に説明することができる。 位置や空間的な広がり・関連、総合		<input type="checkbox"/> 玉山地区にお店を開いている人の話 <input type="checkbox"/> 梁川地区の冬の気温のグラフ	<input type="checkbox"/> それぞれの地区の地図 <input type="checkbox"/> 写真	ノートの記述内容や発言から、川目地区や盛岡市の北東部の様子について、それぞれの地域の特徴をまとめているかを評価する。 【知一①】 【知一②】
	9	古くから残る建物がある場所の様子について、資料を用いて調べ、市内における分布や場所の特徴について捉えることができる。 位置や空間的な広がり		<input type="checkbox"/> 観光マップ（日本語・英語）	<input type="checkbox"/> 地図 <input type="checkbox"/> 写真	古くから残る建物について、それらの位置や分布についてまとめている。 【知一①】

まとめ	10 本時	市の様子は、場所によって違いがあることを、地図にまとめ、市の特色を文章で表現することができる。 位置や空間的な広がり・比較、総合	□ それぞれが盛岡市の様子について表したカード (ロイロノート)	ノートの記述内容や発言から市の様子について話し合い、場所によって違いがあることを表現している。 【思一②】
-----	----------	---	-------------------------------------	--

III 本時の指導計画

1 目標

市の様子は場所によって違いがあることや市の特色について自分が考えたことを適切な資料を根拠に白地図や文章で表現することができるようにする。

2 評価規準

盛岡市の様子について学習してきたことをもとに、場所によって違いがあることやそれぞれの地域の特色について表現している。【思考・判断・表現】

<努力を要する子どもへの手立て>

単位時間のまとめに使用するロイロノート内のカードを場所によって色を変えることで、視覚的に違いを捉えられるようにする。また、カードの文字と資料をつなげて捉えることができるように、関連ある資料は並べて提示する。

3 展開

段階	学習過程	時間	学習活動	期待する子どもの姿	研究に関わる手立て	◆留意点◇資料 評価
問題把握	動機付け・方向付け	2	1 学習問題について振り返る。 わたしたちが住んでいる盛岡市は、どのような市なのだろうか。		◆ 手立て1 学習の深まりを実感する振り返り ◆ 手立て2 思考の再構成を促す資料提示(資料) 第1時で作成した地図と今の地図とを比較し、自分の学びを振り返る。教師が学習をする前と今で盛岡市に対する考えの変化について問うことで、地域ごとの特色に視点があたるようにする。	◆ 掲示やロイロノート内の白地図をもとにふり返り、何を解決するために学習を積み重ねてきたのかを確認する。 ◆ 全員が自分なりの答え(2つ以上の選択肢で迷っているも可)をもっているかを教師が確認をする。難しさを感じている子については、「どのような」の部分についての選択肢を教師が用意し、その中から選択させ、理由について考えさせるようにする。 ◆ 他の人の考えが知りたい、という気持ちを子どもから引き出す。
		3 5	2 学習問題についての自分なりの答えをもつ。	○ 建物が多い所ばかりだと思っていたけど、田や畑が多い所もあったな。 ○ やっぱり、人が多いから、にぎやかなまちだと思う。 ○ 全体を見ると緑が多いから、自然が豊かなまちかな。 ○ ほかの人の考えも聞いてみたいな。		
問題追究	考察	8	4 自分の答えの根拠となる資料を探し、他者と共有する。	○ 人が多くてにぎやかな市だと思う。盛南地区も盛岡駅も、人の種類は違うけど、人がたくさんいる。 ○ 自然がたくさんある市だと思う。川目地区も太田地区も自然に囲まれているし、地図を見ても緑の場所が多いから。 ○ 便利な市だと思う。公共施設がたくさんあるし、交通もいろいろな種類がある。 ○ 一言で表すのは難しい。	◆ 自分が作成した白地図 ◆ 根拠となる資料(ロイロノート内) ◆ 自分の資料を根拠に、相手に伝えることを確認する。 ◆ 最初は、隣の人同士で共有し、よりよい共有の仕方を全体で確認する。その後、自分が知りたい相手に聞きに行けるようにする。 ◆ 考えの変化があった時には、その変化が分かるように書き加えられるようにする。 ◆ 子どもたちの説明の仕方を取り上げながら、根拠となる資料が2つ以上であると説得力あることを全体で共有する。	
		8 14	5 ロイロノート内で、それぞれが考えた学習問題に対する答えについて共有し、それぞれの考えを比較する。	○ 人が多いところもあれば少ないところもある。 ○ 建物が多いところもあれば、自然がたくさんあるところもある。 ○ 盛岡市にはいろいろな場所があるから。 ○ 場所によって、特徴が違うから。		

問題解決	ふり返り	5	7 単元の学習を改めて、ふり返り、学習問題に対する答えを考える。		◆ 一段落目は、学習問題に対する答え、二段落目は、主語を自分にして書かせることで、盛岡市について深まった理解をメタ認知し、問題を改めて自分事として捉えて考えることができるようにする。 評価 盛岡市の様子について学習してきたことをもとに、場所によって違いがあることやそれぞれの地域の特色について表現しているかをノートの記事や発言から評価する。 【思考・判断・表現】
			わたしたちが住んでいる盛岡市は、どのような市なのだろうか。		

つなぐ
えらぶ **つかう** **【期待する子どものふりかえり】**
私たちが住んでいる盛岡市は、場所によっていろいろな違いがある市だ。例えば、盛岡駅の周りや市役所の周り、盛南地区は人が多いが、人の種類やいる人の理由が違う。
私は今回の学習で、地図を使うと、行ったことがなくても様々なことが分かることが心に残った。今回勉強した盛岡市のことが本当なのか、自分で行って調べてみたい。